



音更川にヤマメの稚魚を放す子供たち

音更川 ヤマメ元気に育つて 3千匹放流、生物観察も

【音更】帯広大谷短大地域連携推進センターの環境学習会が12日、音更川河川敷の音更町柳町地区水辺の楽校で行われた。参加した子供たちは、音更川の水生生物を観察したり、ヤマメの稚魚約3千匹を放流した。

(中沢弘一)

帯大谷短大が環境学習会

帯広市や音更町などの小学生約150人が参加。全国の環境保護団体の活動を支援するトヨタ自動車の「AQUA SOCIAL FEES」(アクア・ソーシャル・フェス)の一環で、道内では「クリーンH

OKKAIDOプロジェクト」として、北海道新聞社が後援している。参加者は3グループに分かれ、ドジョウやトケウオなど音更川に生息する生物を観察、河川敷の清掃を行った。また、体長5センチほど

のヤマメを放流。音更銘蘭小6年の東海林歩果さん(11)は「元気でいってらっしゃい」という気持ちを込めて、川に放しました。同短大地域連携推進センター長の津久井寛教授は「地域に残る素晴らしい環境や、人と自然のかかわりを子供たちに学んでもらえれば」と話していた。